

後志地域における広域観光形成を前提とした、観光動態の可視化に関する調査・研究

プロジェクト代表者：後藤 英之

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、後志地域における観光客の動態を可視化し、新たな観光資源の発掘と観光戦略の検討を行うことを目的としています。具体的には、小樽市及び余市町、倶知安町、ニセコ町を対象とし、観光客の動態を把握、新たな観光資源の開発を行う。小樽市や余市町、ニセコ地域が連携し、観光地としてのブランドアップを図ることで、小樽・余市・ニセコ地域との広域観光圏形成が可能となり、地域経済活性化につながるものと考えております。

2. 具体的な取組内容

【本プロジェクトのスキーム】

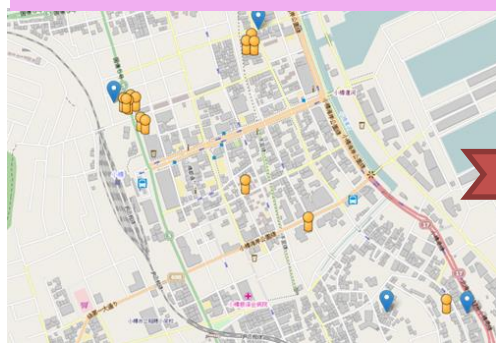
本学と国立情報学研究所(NII)との共同プロジェクトとして立上げを行い、後志管内町村も参画しました。具体的には、NIIの開発した「wifiビッグデータ動態分析プラットフォーム」を活用し、実験的に小樽市内のインバウンド観光客の観光動態分析を実施しました。今後、小樽での分析を後志地域での動態分析に拡大し、広域観光実現に向けたプロジェクト活動を行いたいと考えております。



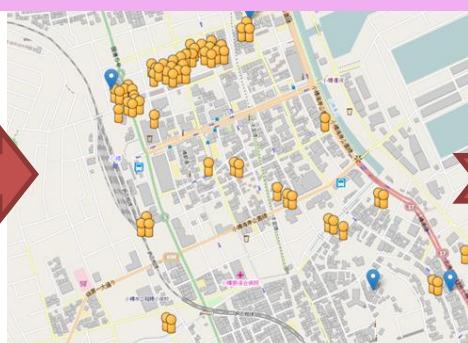
ビッグデータ動態分析プラットフォーム
「出所：NII曾根原研究室」

プロジェクト体制

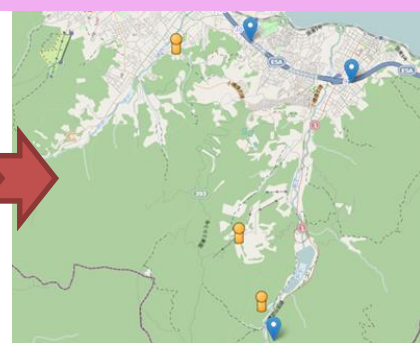
小樽市における外国人観光客の動態(1日)



【午前中】
小樽駅⇄運河周辺への人流
小樽駅⇒メルヘン交差点への人流



【午後】
小樽駅⇄運河周辺への人流↑
小樽駅⇒メルヘン交差点への人流↑
小樽駅⇒朝里川温泉への人流



【午後～夕方】
小樽駅⇒朝里川温泉へ団体客の人流を確認
※朝里川温泉を核とした、観光造成の必要性

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

今年度のプロジェクト成果は、連携機関との勉強会などを通じ地域政策に活用して頂く予定です。